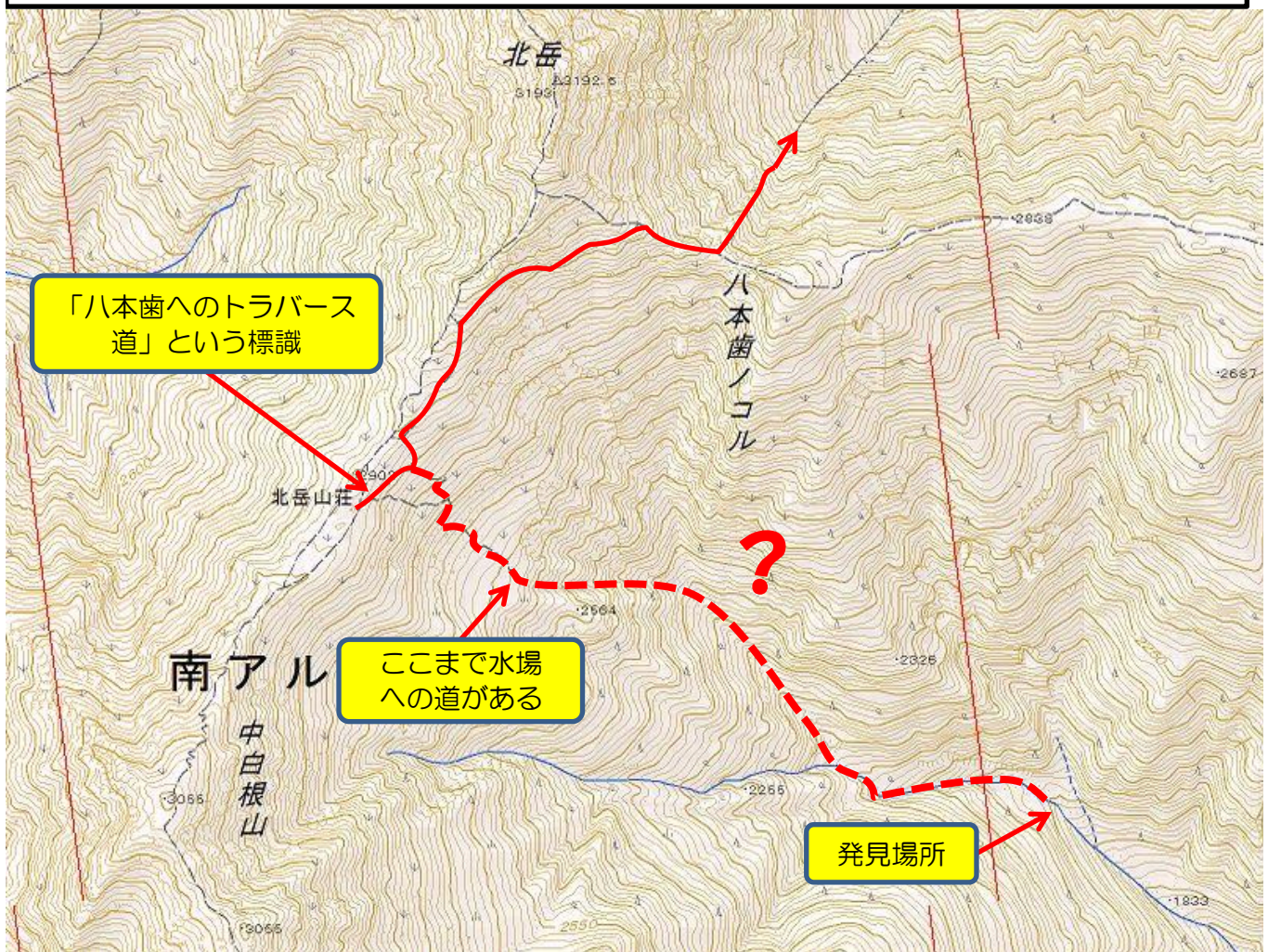


## 北岳遭難(2001年9月)

睡眠不足、食欲なし、霧雨。「八本歯へのトラバース」の看板が魅力的であり、急遽、尾根道をトラバース道に変更した。すぐにつづら折りの下りになったが、おかしいとは思わなかった。道迷いの不思議である。



## 解説

前日に北岳に登ったが、体力が無かった。夜は食欲も無く、一睡もできなかった。こんな体調の中、霧雨が降り、北岳への登り返しよりも、トラバース道を選んでしまった。しかし、トラバース道を選んだはずが、水場への道を下り、沢へ道迷いをしてしまった。1時間ほど下ったところで、小さな沢に出たが、黄色いペンキで対岸方向に矢印が記されていた。道らしきものはなかったが、「矢印があるのだから」と沢を渡ったところで4mほど滑落した。気が動転して、「えーい、面倒臭い」とこのまま沢を下ってしまった。ビバーク中は、「沢を下る」「引き返す」「左岸の尾根を登る」「右岸の尾根を登る」と考え続ける。「『神様』教えて下さい。」祈らずにはいられなかった。水流が凄じい水音を聞いて恐怖にかられたが、「なんとかなるさ」と不安を打ち消し、自分を勇気づけた。すでにこの時、登り返す体力は残っているとは思えなかった。4日間、沢を彷徨った末、**偶然**、沢の写真の撮りに入渓した登山者に発見された。

「八本歯のコル」までは、長いトラバースが続き、水場への道は、すぐ、つづら折りの下りになる。全く違うのだが、道迷いに陥ってしまう。不思議だ。体力の不足、体調不良、天候、すべて複雑に絡み合って道迷いに陥る。登り返す体力がないから、沢に逃げた。面倒臭いから、沢に逃げた。沢に逃げてはいけない。「なんとかなるさ」と自分を勇気づけてはいけない。沢は「なんとかならない」危険な場所と警鐘を鳴らしたい。